

第5学年 道徳学習指導案

平成28年10月26日(水) 第5校時

1 主題名 礼儀正しい言葉遣い 【内容項目 2-(1)】

資料名 ちょっとひどくない? (出典 彩の国の道徳「夢に向かって」 埼玉県教育委員会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目2-(1)「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。」ことをねらいとしている。この内容項目は、低学年の「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。」、中学年での「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。」を経て、高学年の内容項目につながってきている。そして、さらに、中学校の内容項目「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。」へと発展していく。

この時期になると、友達との関係でちょっとした言葉遣いや態度の行き違いから互いに傷つけてしまったり、慣れや気安さのあまり、失礼な言葉や乱暴な言葉を使ってトラブルになったりする姿が見られる。この学習で相手を尊重する気持ちを考えることを通して、礼儀正しい言葉を使おうとする態度を育て、実践意欲に繋げていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級及び学年の児童は、平成28年度埼玉県学力・学習状況調査の「規律ある態度」達成目標における質問紙調査において、『ていねいな言葉使いを身につける』という項目で、県や町の平均が80%台であるところ、70%台と低い達成率であった。この数値より、児童が言葉の使い方への注意や認識が甘く、望ましい言葉遣いができていないと感じている児童が多くいることがわかる。生活の中でも、相手が傷つく言葉であるとは理解していても、気の緩みや軽い気持ちで使ってしまう様子が伺える。

そこで、本学級の児童の実態を把握するために、次のような調査を行った。

『言葉遣いについてのアンケート』 (9月26日 実施)

① 友達に言われて「嫌だな」と感じた言葉は何ですか。(複数回答)

死ね 63% ばか・あほ 50% うざい 44% くそ 44% キモい 34% デブ・ガリ 22%
名前や特徴に関すること 34% うるせー19% チビ 13% カス 9% は?6%
以下 3%...ダサイ 近づくな 消えろ ブス ぶりっこ 絶交する 気ちがい

② ①であげた言葉を使ったことはありますか。

「はい」 72% 「いいえ」 28%

③ ②で「はい」と答えた人は、どんな理由でいっていましたか。

・相手にも嫌なことを言われたから 52% ・カッとなったから 35% ・ふざけて 13%

④ ②で「いいえ」と答えた人は、なぜ言わないのですか。

・相手が嫌な気持ちになるから 56% ・自分が言われたら嫌だから 33%
・言いたくないから 11%

これらの結果から、今までの経験の中で友達に傷つく言葉を言われ嫌な気持ちになった児童が多いということが分かる。

本時では、この経験を主人公や節子を感じる、傷つく言葉を言われた側の気持ちを理解することにつなげたいと考える。また、傷つく言葉の使用に関しては「はい」と答えた児童は多く、その理由は相手に言われたから言い返したり、腹を立てて言ってしまったり、その場の雰囲気でもうざけてしまったという回答であった。しかし、答え方から、よくない言葉だと認識していながらもつい感情的になる等して使っていることが伺えた。更には、「いいえ」と答えた児童の中に、普段の学校生活において言葉遣いが気になる児童が含まれていた。このような児童には、相手に嫌な想いをさせているという自覚がないのではないかと考えられる。

これらのことから、本学級の多くの児童は相手の気持ちを考えた礼儀正しい言葉遣いへの実践までには至っていないことが分かる。しかし、中には礼儀正しい言葉をきちんと使えている児童もいるので、そのよさを引き上げて学級全体に広げていきたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公の私が「うざい」という言葉をあまりよくない言葉だと知りながら友達に流されて使ってしまうところから始まる。しかし、いざその言葉を友達から自分に向けられたことで、言われた側は傷つけられるということを知る。そして、その言葉の重みについて考え始めるという内容である。「うざい」という言葉を使うことで友達との中を更に深めたい、仲間はずれになりたくない、という主人公の気持ちを共感させ、人を傷つける言葉であることに気付いてからの主人公の気持ちの変容を考えさせたい。また、友達の顔をじっと見つめている場面から、言葉を受け取る相手の気持ちを考え礼儀正しい言葉を使うことの大切さを感じとらせ、ねらいとする価値に迫りたい。

3 研究テーマとの関わり

本校の研究主題

『自分の考えを持ち、意欲的に学び合う児童の育成』

～主体的・協働的な学びへの授業改善～

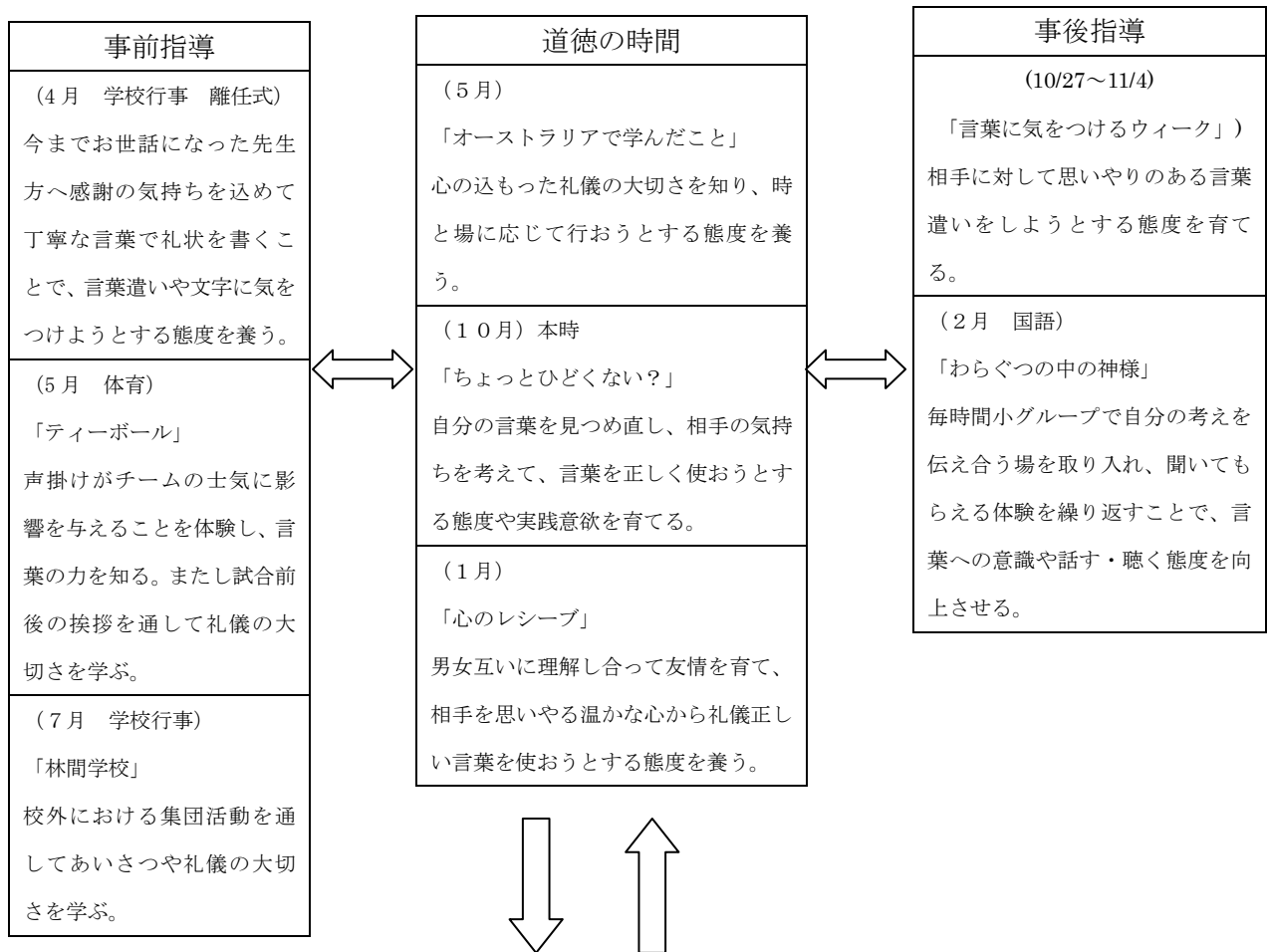
【視点1】自分との関わりで、主体的・能動的に考えるために

- ・アンケートを行い、導入で自己の生活を振り返ることでめあてに迫るための意識を高める。
- ・児童の実態を把握し、意図的指名で授業を展開する。
- ・価値を理解できるよう、資料提示や板書を工夫し、主人公の心の変化を捉えやすいようにする。
- ・振り返る視点を明確にしたワークシートを活用し、書く活動も入れることで自分の生き方・在り方を内省できるようにする。

【視点2】学び合いを深めるために

- ・展開の後段では課題を提示し、問題解決型の道徳授業を展開する。主人公の姿を通して、道徳的問題や価値を主体的に捉え、どのように行為・実践したらよいかを考え議論できるようにする。
- ・小グループでの話し合いの時間をとることで、全体では意見が言えない児童でも発表の場を設け自分の考えを伝えたり考えを深めたりすることができるようにする。

4 他の教育活動との関連



家庭との連携

授業参観で道徳の授業を行ったり、授業や日常生活の様子を学級便りや教室掲示で伝えたりする機会をもつことで、家庭でも時と場に応じたあいさつや言葉遣いに気をつけてもらう。

5 本時のねらい

自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えた礼儀正しい言葉を使おうとする実践意欲や態度を育てる。

6 学習指導過程

段階	○学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価 ①ユニバーサルデザインの視点	時間
導入 気づく	○言葉についてのアンケート結果を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「嫌だな」と感じる言葉を使ったことがある人は 72% もいるんだ。 ・どれも言われたら嫌だな。 ・言われるから言っちゃう人が多いんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言われると傷つく言葉がたくさんあることを再確認させ、本時の学習課題を知らせる。 ②「言葉遣い」について考えることを伝え、学習に見通しを持たせる。 ・主題に対する興味や関心を高め、学習意欲を喚起する。 	3分

展 開	とらえる	○資料について知る。		㊦挿絵や短冊を使い、登場人物や条件・状況を押さえる。	5分
		<p>主人公…私 相方…節子、美代子、志保 (条件・状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私と美代子、志保、節子は小さい頃からの仲良し。 ・休み時間には、私、美代子、志保の3人でいつもおしゃべりをしている。 ・節子は代表委員である。 ・次の授業では修学旅行の感想文を書くことになっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の心の内がつかめるように、間の取り方やキーワードに気をつけながら読む。 ・資料を分割して順番に問題場面を提示することで、その時の主人公の気持ちをしっかり捉えさせる。 <p>☆主人公は、どんな気持ちか考えて考えてみたいという意欲がもてたか。(発言・観察)</p>	
	○資料の提示の工夫を工夫する。				
	深める	○主人公「私」の気持ちを中心に話し合う。			10分
1 私はどんな気持ちで「うざい」という言葉を使ったのだろう。		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと同じ気持ちだったから嬉しい。 ・友達と同じ言葉を使えて楽しい。 ・さらに仲良くなれた気がする。 ・軽い気持ちで言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よくない言葉だと分かってはいるながらも、友達と同じ言葉を使うことでさらに仲良くなれたと感じている主人公の気持ちに共感させる。 		
		・今まではどうして使っていなかったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・悪い言葉だから。 ・よくない言葉であることは分かっていたから。 		
		2 新しいペンケースを「うざい」と言われた時、私はどんな気持ちになっただろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどい。 ・かわいいと言ってもらえると思っていたのに。 ・友達なのに、どうして…。 ・言われると傷つくな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物に「うざい」という言葉を向けられ、初めてその言葉の重さに気付く主人公の気持ちの変化を捉えさせる。 	
		・なぜ一緒に笑ったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間はずれになりたくない。 ・場の空気を壊したくないから。 ・無理して笑っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が今感じていることとは真逆な言葉を発した主人公の苦しみを押さえる。 <p>☆「うざい」という言葉が、人を傷つけてしまうことに気付くことができたか。(発言・観察)</p>	
		3 「私」はこれからどうしたらよいか話し合う。			19分
		・美代子や志保、節子の顔を見ながら考え	<p>A 案…もう言わない。 →傷つく人が減る。</p> <p>B 案…節子に謝る。 →わだかまりがとける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動と小グループでの話し合い活動を取り入れ、自ら問題状況を分析した上で主体的に判断して解決策を考えさせる。 	

		ています。 課「私」はどうしたら よいか考えてみよ う。	C 案・・・美代子と志保に教え る。 (D 案・・・学級全体に広める) →クラスから人を傷つける 言葉が減る。	・小グループでの話し合いの後、 全体で深める。 ・解決策の結果を尋ねる発問を心 掛け、考えの根拠を明らかにさせ る。 ㊦小グループで話し合う。 ☆課題解決を通して、礼儀正しい 言葉遣いとは何かを考えること ができたか。 (ワークシート・発言・観察)	
終末	みつめる	○自己を見つめる。 ・今日の授業でどのよ うなことを考えまし たか。学んだことや 考えたことを書きま しょう。	・今まで軽い気持ちで相手を 傷つける言葉を言ってしま っていたから、これからは 気をつけたい。 ・仲のよい友達でも、言葉遣 いには気をつけていきた い。 ・クラスの中で相手を傷つけ る言葉を言っている人がい たら、これからは勇気を出 して声をかけてみたい。	・アンケート結果に戻り、自分自 身や学級の道徳性を見つめ直 す。 ☆自分の言葉を見つめ直し、相手 の気持ちを考えた礼儀正しい言 葉を使おうと考えることができ たか。(発言・ワークシート)	5 分
	あたためる	○教師の話を書く。		・道徳的価値が児童の心に留まる よう、ゆっくりとした口調で話す	3 分

7 評価の観点

○児童側の観点

- ・主人公の気持ちに共感して、自分なりの考えをもつことができたか。(発言・観察)
- ・自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えた礼儀正しい言葉を使おうと考えることができたか。(発言・ワークシート)

○教師側の観点

- ・児童が主人公の気持ちに共感できるような板書や発問の工夫ができたか。
- ・授業を通して、児童がどんなことに気付きを得られたかを、適切に評価することができたか。

8 備考

(1) 板書計画


「私」はどうしたらよいか考えてみよう

親しき仲にも礼儀あり

使わない

気付かせる

広めない



もう言わない

謝る


友達に教える

一緒に笑う

仲間はずれになりたくない

場の空気を壊したくない

かわいいと言ってもらえると
思ってたのに...



うざいよね


ひどい

うざいよね

軽い気持ち

同じ気持ちで嬉しい

さらに仲良くなれた気がする



小さい頃からの仲良し

休み時間に三人はいつもおしゃべり

次の時間は感想文を書く

美代子

私

志保

節子(代表委員)

ちよつとひどくない?

◎言葉づかい

(2) 資料分析

スタートの条件・状況 主人公：私 相方：節子、美代子、志保

- ・ 私と美代子、志保、節子は、小さいころからの仲良し。
- ・ いつも私は、美代子と志保の3人で休み時間におしゃべりをしている。
- ・ 節子は代表委員である。
- ・ 次の時間に感想文を書くことになっているが、私と美代子、志保は面倒くさいと感じている。

《 話題につなげたい場面 》

《 動き、気持ちの変化、関わり合い、キーワード等 》

休み時間に3人でおしゃべりしている場面

新しいペンケースを「うざい」と言われた場面

美代子、志保、節子をそれぞれ見ていた場面

